

日七廿月三



定価 一月五拾五圓 半年二拾五圓 一年四拾五圓
電話 二五三三 行金五拾五圓
日曜 祭日の日 休刊
発行所 常磐日日新聞社
〒六二〇 平野町
印刷所 常磐日日新聞印刷局
〒六二〇 平野町

天地佛性

眞繼 雲山

昔は國と國とが戦争をしたが現代は個人と個人とがつかみ合ふ闘争の時代であるそれが勞資に別れ與黨野黨に分れる、勝ちを制する便宜の上から團結することになるのである、むかしの戦争様式は三尺の秋水を引き抜いて相手の首をチョン斬ることであつた。今日の戰鬥様式は相手を蹴飛ばして自分が賞選し祝盃を擧げることそれが代議政治の本則である。自分は罪惡深重の凡夫であるによつてまああなだ當選して下され」などと謙遜してゐる日には代議士にも大臣にも成れッことはない、相手の落選の悲涙を我が祝盃に並み／＼といついで快哉を叫ぶ非人情漢ではない、これは刀と投票との相違があるだけで他人の不幸を我が祝福に代へる生存競争の原理は今昔その軌を一にする、左れど靜かに考へるに相手を蹴落して自分だけ得々たる事が果して人間としての眞の喜ばしさであり願ひであるべきであらうか、これを逆にしてすべての人を喜ばせ満足させることがやがて本統に自分の満足となるのではなからう

か。これを小さく例に取つて一家の内の女房や子供が空腹をかかへボロを着て貧苦に泣いてゐるのに亭主だけが美衣美飲して遊蕩三昧にふけてゐたところをそれが何として主人の樂しさをあらう、たとへ亭主はボ

ノート

客に蒸菓子の類を出す時に

は揚子が箸を添へるものだが干菓子には添へないこれは手で取つて食へる

口着空腹を忍ぶとも女房子供に美衣美食を興へ得るとさ初めて亭主の眞の喜ばしさがあるであらう、そこに荒み果てた人間の心の奥底にも佛の心の宿りを見るこ

とが出来、それを悉有佛性と云ふのである、かつて樂翁公松平定信は天下饑饉になやみ幕政亂るゝや身を捨てて經濟國難に當り率先おかゆを啜つて荒備勤儉の範を自ら示した、駒込吉祥寺に願文を掲げて曰く「その治政若し神慮に叶はずば臣が一命を召し給へ尙ほ足らざれば妻子の命根を断らせ給へ」と斯くてウソ偽りでない命がけで國難に當りたればこそ僅か三年にして國勢は復興した民衆の苦患救はれずんば定信みづからは救はれなかつたのである

このごろ國民の殆んど全体が不景氣、失業苦、生活難のどん底に血を吐いて生死の境をさま迷ふてゐるのを傲然と冷眼視して得々然とアゴを突き出し別荘通ひをしてゐる富豪、大臣、高官、黨人あらばそれは佛性ある人間といふことは出来ない政治家富豪黨人として威張つてゐるにしても人間としては上等の部でなく宗教的に見て泥凡以下である、苟くも佛性ある人間としては別荘へ行こうにも行く氣にはなれぬ、否その別荘を賣り飛ばして失業者の一人でも二人でも救はずにはゐられぬさうでない限り鯛の刺身も喉を通らぬお粥さへも喉を通らぬといふのが

切に自己を見つけるときに永生があり眞の自分で發見されるのである。一切を救ひ果たさぬかぎり眞の満足に到り得ないといふ人間性に私は大地の佛性を觀照する狗子なんとして佛性なさらんやその皮袋裡に入るは縁によるのである。人として佛性なく犬猫にすら劣るといふのはたとへ大臣高官といふといへども省みて深く自ら恥づべきだと思ふ



新興俳句

吉田 甫

- 胸深く悲哀と憤怒が酒をくむ
- 猫は水から静かさのみをなめてゐる
- 冬月はするどさばかり光つてゐる
- 空は煙を呑むので煙突は燃える
- 吹雪に命こわされてゐる窓硝子
- 晴れた青空から健康を吸つてゐる（深呼吸）
- 時雨は私を大木の下にかくしてゐる
- 冬の風は裸木から音をむしつて走る
- 便箋の上に梅が咲いてゐる長閑さ（手紙）
- 春のぬくみが木の芽をゆり起してゐる青さ

- 明日の献立●
- 朝●みそ汁：小かぶ
- 晝●握りすし：おぼろえ
- 夕●薄やき玉子 酢
- どり生姜
- 晩●にしめ：生揚げ 豆腐 ちくわぶ

宗教の意味であり佛性の立場である、子を持つた母猫に魚を與へて御覽うじやせかけてゐながら自分は食はぬ母性愛に燃ゆるとき犬猫にさへ佛性はあるのである孤立したる單なる自分といふものはない、大いなる一

看護婦急派の求めに應じます

平野町南町
平看護婦會
電話三〇七番

印刷御用命

常磐日日印刷株式會社
電話三六〇番

耳鼻咽喉科専門 大和田醫院

平野町南町
電話一〇七番

雛人形 雛道具 特價賣出し

金太郎玩具店
平野三丁目

雛人形道具一式 特價大賣出し

フクダヤ際物部
平野四丁目

是非御利用を

井質店
平野四丁目河岸通り
電話六〇六番

月曜是非

愈よ明日

國際聯盟退の御諮詢案は本日御裁可を仰ぎ愈よ明日は内田外相の名を以つてジュネーヴの國際聯盟事務總長ドラモンド氏宛に脱退の正式通告を發する模様である。

識者の言として、日本が國際聯盟退の曉、もし經濟封鎖を受けても、それは懼るゝに足らず、否、經濟封鎖の如きは到底不可能事に屬す。と語るのを耳にしたが、素より之はさうであらう。唯、この場合、日本國民たるものゝ、最も戒心を要する点は、不可能事の有る無しに關らず、經濟封鎖を受けたる場合如何の問題は、夢にも忘れてはならぬ想定であつて、この想定を忘れる限り、日本人の經濟生活の沈滯は、その域と一歩も脱却することは出来な

一國の國情も、一家の調子も決して異なるものではない、一家經濟の破局の場合如何を考へない限りその家計の進歩はあり得ない。人間は、眞裸になつた時の覺悟、ドン底生活に沈淪した時の覺悟、さふした覺悟を常に有して居なければ物の役には立ち難い、即ち古語の『治に於て亂を忘れざる』も此の謂に外ならぬ。然も現今の如き、危急の重大時局に直面しては、正に

第一義の關心事であり、千萬人と雖も我れ往かん』の眞勇を以つて世界維新の實

八年度五萬圓で更に小濱港修築

植田町で出縣陳情

石城郡植田町では七年度巨額救事業として工費一萬四千圓の小濱港築堤並に浚渫工事を起工し過般竣功を見たが同町では八年度に於いて更に五萬圓の巨額救事業として同工事を繼續すべく平土木監督所を経て縣に申請したが近く町代表が出縣して實現運動を行ふ筈であると

林道竣功

好間の喜び

石城郡好間村大字上好間から箕輪村に通ずる延長一里餘幅員二間の巨額林道改修工事は工費三千八百圓を以て去る一月着工したが愈々

農民の血涙史

往時を想起

斯ふして絶望のドン底に農民が喘いで居る時、鮫川水力會社の専務取締役任に任したと稱する、香田秀長(假名)といふ男が現れた、

會社喰ひの名人である、彼れは幾つかの會社を毒爪に掛け、多數の人の

を擧ぐる覺悟を常に把持すべきである。

警中編入合格

けふ發表さる

警城中學校に於ける本年度第二學年以上の編入試験合格者は左の如く決定本日發表されたが應募人員は二年十一名、三年九名、四年二名であつたと

花松ヶ岡の準備

平町土木委員會

平町では本日午後一時より役場會議室に於て土木委員會を招集し松ヶ岡公園の櫻花宣傳に就いて各種催物に就いて具体案を協議した

炭健保總會

役員選舉執行

磐城炭礦健康保險組合にて血を吸つて、舌なめずりながら生きて居る男! 此の男が同會社に

未拂金の

入んで、腕をしごきながら乗り出したのである。香田は、今は會社が非常な資金難の爲め既定の工事も營めぬ程の窮境へ陥つて居る故に此處で資金を注ぎ込めば直ちに會社は

事業の緒に著く事が出来ると思つた、そして第二回の拂込みを疊みかけて

である

鎌田衛生區長

平町十八區鎌田の衛生區長並に世話係一名は此の程辭任したので是が改選を行つた結果衛生區長には鹿島要助氏世話係には荒木忠吾氏が當選した

上田檢事

仙臺に榮轉

平區裁判所檢事上田次郎氏は此の程仙臺地方裁判所檢事に榮轉する事に内定したので赴任の準備中であるが後任は未定であると

好間校卒業式

石城郡好間第一小學校二十四回卒業式は廿五日舉行されたが卒業生は尋常科男百十二女百十三、高等科男八十九女六十九合計三百八十三名で昨年に比し四名減少

好間の同窓會

石城郡好間小學校第三十七回同窓會は廿五日午後一時から第一小學校で開催された

強制執行

に依つて一堪りもなく打ちのめされてバタ／＼と片押しに倒産者が相次ぎ磐崎村の〇〇如き金持ちツツキの部落であつたが軒並び素ツ轉々にされ

講習生の視察

東白川郡農會主催中堅農民講習生五十餘名は廿八日自動車に分乗して來郡神谷農事試験分場及び草野泉等の農業經營を視察する

四倉納稅表彰

石城郡四倉町では来る廿九日午前十時より同町小學校にて優良納稅組合及び永年勤続組合長の表彰式を舉行する

茂庭博士が

元平町平水道視察 水道部顧問茂庭工學博士は仙臺よりの歸途昨廿六日午後六時卅六分平驛着列車にて來平したので本日青沼町長の案内で過般竣功した好間村地の排水場を視察した

メートル宣傳

平町役場では來月十一日の度量衡記念日に際しメートル法使用に就いての注意を一般に普及させる爲講演映畫等の催物を開會すべく調査中である

門傳君が合格

平町振興小學校護士門傳清吾氏令息正君は今回水戸高等學校の入学試験に見事合格した

平校定期種痘

平第一小學校にては昨日午前九時より定期種痘を行へ第二回は本日行つたが第三回は明日行ふと

平町人事

△三丁目二八 横山良藏氏

- 四女トミ子
△新川町八 小川榮作氏二女喜代
△紺屋町二九 當時大阪市住吉區淀町二六大野虎雄民長女紀子
△紺屋町三 當時安達郡二本松町龜谷八九山村明氏長女キミ

三井タクシ

電話八五番

井坂醫院

平町田町 電話五九番

雨を衝いて集ふ

痛まじい受験生

けふから一齋に開始した

中等學校入學試験

各小學校兒童が痛しくも骨身を削つて準備した過去一年間の清算が決せらるべき中等學校入學試験は本日午前九時より警中警女平商共一齋に開始された昨夜來父兄や先生や本人は眠もやらで一夜明け今日兒童等は夜來の雨を侵して父兄に附添はれ或は先生に引卒され續々と各校目指して登校し

試問▼平商一時間目國語二時間目算術三時間目口答
▼警中一時間目算術、二時間目國語三時間目地歴
▼警女一時間目國語二時間目算術、三時間目口答

立をなしたので近日平區裁判所に於て關口判事係り小林檢察立會の下に公判開廷する事になつたが同事件は被告人の多數なる点に於て

手に負えぬ留七

愈よ薰陶園送り

けふ平署から中村へ

既報孤兒の窃盜犯人として再三平署員を悩ました平町南町佐藤磯八二男留七(七)は假名は既記の如く平署員の肝煎で三丁目松崎自動車店へ引取られたが其後無斷逃走し再び空巢視ひで平署に檢舉される有様なので同人の將來を憂いた平署では豫てより同人が辯護士の希望を有して居る處から同署では中村陶薰園に入院せしめ添で出發した

被告が十四名

近く正式公判

磐炭事件に次ぐ大裁判

小端百十五番地内に家屋建築の目的でコンクリートの基礎工事をなした爲め憤慨し共同して石右垣及びコンクリートを破壊し去る十四日平區裁判所關口判事より各罰金二十圓宛の略式命令に處せられたが本日不服とあり安齊、山野邊の兩辯護士を代理とし正式裁判の申



明日の天気

今晩は南西の風小
雨明日は北東の風
午前中小雨午後晴

今晩の部
後六、〇〇 子供の時間
お話し「誰にも出来る簡単な測量」大石義郎
後六、二五 趣味講座「南洋諸島で拾つた話」安藤盛

昭和二年度の磐炭ストライキ事件に次ぐ事件なので福島に報告すると共に係官も緊張して居る

赤井の火事

子供の弄火

石城郡赤井村大字赤井字畑子澤農小野邦芳物置より廿五日午後四時半頃發火同所を全焼して同五時鐘火した原因は同家四男春男(九)の弄火と判明したが損害約百圓である

水高合格者

磐中から

磐城中等學校卒業生にして此の程水戸高等學校の入學試験に合格した者は左の如くであるが中野徳郎及び長谷川順造の二君は目下四年在學中である

中野直久、小野武、門傳正、長瀬順平、中野徳郎、長谷川順造

米價保合

大浦共販成績

石城販賣利用組合の大浦農業倉庫の共同販は去る廿五日同所に行はれた五等五十九俵、等外百廿俵、計百七

ス 氣象通報
明日の部
前九、一〇 料理献立一朝鮮料理タンブクチャム
成田玉純
前一〇、三〇 家庭講座
後〇、〇五 獨唱とピアノ
佐久間千枝外
後二、〇〇 家庭大學講座
「國文學を通じて見たる日本の女性」池田龜鑑
後六、〇〇 子供の時間

童話 子鳩會々員 ビアノ伴奏河村直利
後六、二五 講演「最近の歐米體育界を視察して」大谷武一
後七、三〇 大毎主催全國選抜中等學校野球大會茶話會狀況(大阪中央公會堂より中繼)
後八、〇〇 野球ウアラエライ
後八、五〇 連續講座「水戸黄門第二席」田邊南龍

老婆頓死

心臓マヒと判明

石城郡赤井村字諏訪原居住草專之助妻シン(七)は昨廿六日午前十時頃自宅附近の道路にて絶命して居るのを通行人が發見し届出に依り平署員が檢死した結果心臓麻痺と判明した

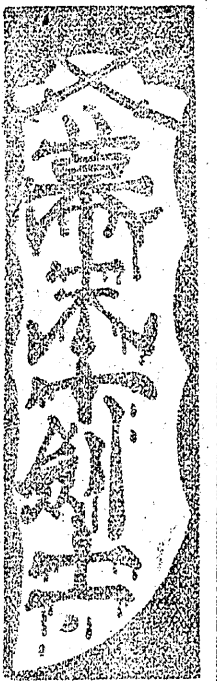
石鷄俳句例會

好問村石鷄吟社では廿八日の舊節句を卜して同編輯所に於て俳句例會を開くが兼題は梅

裁判所だより

△石城郡四倉町字仲町九十八番地片寄留方雇人橋本幸三郎(三)は去る四日夜大浦村大字上仁井田字松葉石川七壽方雨戸より故なく家屋内に侵入し住居侵入罪として罰金二十圓に本日平區

- 平職業協會所報告
- 回人を求める方
- △農夫 三十才 委細面談 (高久村某)
 - △裁縫見習 十八才 尋卒 給料面談(平町某)
 - △菓子見習工 十六才 尋卒 仕着小遣(平町某)
 - △調理見習 十六才 高卒 仕着小遣(平町某)
- 回職をる方求め
- △西洋洗濯業 十九才 高卒 給料面談(内郷村某)
 - △旋盤工 十七才 高卒 給料面談(内郷村某)
 - △菓子工見習 十六才 高卒 給料面談(飯野村某)
 - △洋品店員 十六才 給料面談(平町某)



【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲書
佐々木見山

第二百九十九席
大六取戻しを約す

松崎采女に渡邊金彌は病氣と稱し引籠つてゐる、ところへ尋ねて来たは菊地大六「どうなされた、イヤ病氣といふ事は聞き及び居つたがその後容態は大分氣色も宜しくないナ」

松「先生えらい事が始まりまして、とても手前の生命は助からぬと覺悟致し居ります」

大「それほどの大病とも思へぬが、氣力も確か又語氣にも力がある」

松「ハイ、無理に死なねばならぬ事が出来まして」

大「それはどんな事か、大切な生命をすてるとは定めし一大事出来た事と存ずる貴公と拙者とは師弟の間弟子は我が子の如く、子の大事とあつては力の限り之を救はねばなるまい、まづその仔細を話さない、拙者の力の及ばざる時は腹を切るも宜しからう」

松「誠に恥入つたことでございませうぞお聞き取り下さいまし」

大「それはどういふ事か」

松「先達て渡邊金彌と共に殿様の御乗馬を拜んで飛

鳥山へ花見に参りました其時に同じく花を見て居りました二人の若き女にたはむれ果ては酒を肴めこれを飲み干したならば褒美を興へると申しました處が、馬をくると斯う云はれました何の此奴等が馬を馭すこと

し居るは感すべきものだ」
松「我々にとつては甚だ感心いたしません、殿様の御乗馬を失ふては大變、彼等は何れの者かと段々探ねますと曲馬乗で只今回向院の境内であの馬に乗つて曲を見せ居ります」
大「ハ、ア、曲馬の太夫かそれでは馬を馭すことも出来るであらう」
松「そこで手前と渡邊で談判いたし馬を戻しくれるやうと申入れましたが、見聞いてくれ、その兄が承知いたしたならば引渡すと申



が出来やうかと斯様存じて望み通り馬を興へると申しますと、二人は喜んでその酒を飲み、やがて馬に打乗り飛鳥山を下りましてございませう」

大「ウームさうか、えらい奴だナ女子ながら馬術に達

れが出来ずば俺と試合いたして打勝ちし時は馬を戻すと云はれました、素より五百兩の貯へのなき我々そこで試合をいたしましたがなか／＼出来ずナ」
大「負たか但し勝つたか」
松「ノエ勝利を得ましたならばこのやうな苦心もいたしません二人とも美事に負ましてございませう」
大「負るに美事なぞはいるまい」
松「どうも困りましたナ此事が殿様に知れましては我々共重きお咎めを受けねばなりません、さりとて五百金差出す資力もなし、渡邊も手前も殆んど生きた心地はいたしません」

大「ウーンさうか、拙者が参つて馬をひいて来てやる、イヤそれほど心痛いたすほどの大事ではないその曲馬師の女はなんと申す」

松「小さんに小衆と申し姉妹でございませうが何れも花の如き美人」

大「その山本克美といふ者は二人の實兄か」

松「左様、表面は兄でございますが、内實は小さんの亭主との事でございませう」

大「まあ何にしても悪い奴だナ、イヤ拙者が早速出張して馬は取戻すであらう、しかし松崎、拙者が各々を助けたならば相當な報酬は出すであらうな、先生の御蔭で助かりました、有難いと、詞の禮のみではあるまい」

松「それは心得て居ります渡邊とも相談いたしまして

充分のお禮をいたします」
大「よし承知した、それでは出懸る」
そこを立つた時に松崎の妹おそでがそれへ出てきてどうぞ菊地先生、見と渡邊さまをお助けなすつて下さいまし

大「イヤ御心配御無用、拙者が参る以上は必ず馬は取戻すであらう」
とかう云つたが、おそでをデロ／＼見て出て行きました、跡に松崎は渡邊を呼び寄せて此事を告げ馬は無事に戻るか心配してゐた

通學生用革靴

- ボツクス編上靴(中等學生用).....5.00ヨリ
- 短靴(女學生用).....4.50ヨリ
- 同 サングル(小學生用).....1.00ヨリ
- 他 ゴム靴各種取揃テアリマス

平四丁目 菊地靴店

一冊の代金で

御希望通りな

五冊の雑誌が

自由に讀める

川崎巡回文庫

電六三〇番

中込次第(規則書進呈)

木炭代用この上のない經濟の

徳用豆炭

壹袋正五貫目入金八十錢也
御注文次第御届ケ申シマス

南町(電話六六三番)
磐崎屋酒店

一町目(電話五九六番)
菅本武雄商店

白銀町(電話二九九番)
水野氷店

六町目
矢吹石炭商店

平野前(電話三七番)

阿部石炭商店

●特約店募集致シマス

横濱植木會社の

春蒔さ草花種子が

まいりました

種子は輸出向きの優良質
植木會社の特撰品です

二丁目

西村藥局種子部

(草花種子の蒔き方)送ります

球根、塊根類の御注文も御受けし

御入學、御進級、御卒業ノ

プレゼントニハ是非御時計ヲ

驛前通りノ星野時計店へ願マス

三月廿八日ヨリ四月廿六日迄卅日間

記念トシテ正札ノ一割引特賣

御修繕ハ大勉強組 景品進呈

内科・小兒科・花柳病科

藤沼醫院

入院需應

平町紺屋町
電話五〇七番